

# 北海道大学サステナビリティ・ウィーク2010

大雪山など北日本の山では、高山帯のお花畑の消失に象徴される急激な環境変化が進んでいます。長年の現場観測やリモートセンシングから明らかになった変化を紹介し、北方山岳の生態系サービスの持続性評価に向けた今後の環境観測・監視ネットワークについて議論します。広く山の生態系や生物多様性について関心のある人の参加をお待ちしております。

北海道大学サステナビリティ・ウィーク2010  
公開シンポジウム「北の山で何が起きているのか:変容の持続的観測」  
10月29日(金)午後1時～5時、北海道大学学術交流会館第一会議室

佐藤謙(北海学園大学)

基調講演「高山植生の変化概要」

金子正美(酪農学園大学)

「GIS・リモートセンシングデータで見る日本の土地利用変化と大雪山の植生変化」

嶋崎仁哉(東北大学)

「航空写真からみる八甲田山の植生変化:過去30年間で何が変わったか」

休憩(コーヒープレーク)

工藤岳(北海道大学)

「大雪山における植生変化の現状と生態系長期モニタリングプロジェクト」

朝日克彦(北海道大学)

「変動するヒマラヤ雪氷圏:現地観測からわかる温暖化をめぐる事実と誤解」

石川守(北海道大学)

「日本のツンドラ,大雪山:永久凍土環境とその観測」

司会 甲山隆司(北海道大学)

入場無料・申込不要

山の自然や登山に興味をお持ちの市民のみなさんの参加をお待ちしております。



リシリリンドウ



キバナシャクナゲ



エゾツツジ



イワウメ

背景:「今秋の大雪山」

写真撮影:工藤岳